

8 「実験動物技術」投稿要綱

(2021年3月20日改正)

1. 投稿論文は実験動物に関する知識や技術の発展に寄与する以下に分類される未発表の論文とする。
 - 1) 原著 (Full paper) 独創性に富み、目的、結論等が明確なもの。
 - 2) 短報 (Brief note) 断片的な研究であっても、価値のある新しい知見を含むもの。
 - 3) 総説 (Review) 特定の主題について著書の視野に基づいて体系的にまとめたもの。
 - 4) 資料 (Reference) 知識・技術等を調査取りまとめたもので研究、技術に参考となるもの。
2. 投稿する著者は、筆頭が日本実験動物技術者協会の個人会員か否かを問わないが、個人会員、一般の非会員および学生の非会員に分け、その条件と料金を定める。但し、本協会編集部から依頼された原稿についてはこの限りではない。
3. 投稿原稿は審査員により査読を行い掲載の可否を判断する。
4. 投稿原稿は原則として、一般的なアプリケーションソフトを利用した電子データとして以下に述べる ファイルに分けて提出する。その際、用紙サイズは原則 A4 版とする。
 - 1) 論文本体(表紙から参考文献までのテキストを含むファイル)はマイクロソフト社の Word での作成が望ましい。
 - 2) 図はマイクロソフト社の PowerPoint, Word, Excel や JPEG, TIFF 等を用いぼやけた画像や小さい画像を提出することは避ける。
 - 3) 表はマイクロソフト社の Excel や Word 等を使用し作成する。
 - 4) 字体は標準的なフォントである MS 明朝や Times New Roman 等を用いる。
5. 論文の提出は CD に収めて郵送で提出するか、電子メールにファイルを添付して提出する。提出時は以下の内容を明記したテキストファイルを paper.txt のファイル名で添付する。添付資料1の記載例を参考にする。
 - 1) 論文表題
 - 2) 筆頭著者 (first author) 氏名と責任著者 (corresponding author) 氏名
 - ① 筆頭著者の氏名を記載する。
 - ② 責任著者が筆頭著者以外にいる場合は氏名を記載する。
 - i) 筆頭著者は通常、その論文の内容を十分理解し査読時に、共著者への同意、修正や回答を行う責任著者を担う。
 - ii) 筆頭著者以外に、論文執筆について責任著者を定める場合は、責任著者がわかるように記載する。
 - 3) 筆頭著者名と責任著者連絡先
 - ① 所属機関名、連絡先住所および電話番号を明記する。なお、E メールアドレス等の

連絡手段があれば記載する。

- 4) 送付するファイル名と使用したアプリケーションソフト名
6. 審査員の審査が終了し、最終的に論文が受理された時点で入稿用のデータを改めて提出する。
7. 原稿は、表題、図表、写真、参考文献を含めて、刷り上り頁数が 8 頁以内とし、超過分については著者が実費を負担する。
8. 論文の原稿の構成は以下とする。
 - 1) 第 1 頁に和文で論文の種類（原著、短報、総説、資料）表題、著者名、所属機関、所在地（郵便番号とも）、電子メールアドレスを明記する。
 - 2) 第 2 頁に英文で論文の種類（Full paper, Brief note, Review, Reference）、表題、著者名、所属機関、所在地（郵便番号とも）、電子メールアドレス、英文要約およびキーワード(アルファベット順、5 語以内)を明記する。
 - 3) 第 3 頁以降の記述の順は、原著論文は和文要約、序文、材料・方法、結果、考察、謝辞および文献とするが、短報、総説および資料はこの限りではない。
9. 文の書き出し及び段落を改行した場合は 1 字あけて書き出す。
10. 漢字は出来るだけ当用漢字の範囲にとどめる。動物と植物の和名は原則としてカタカナ表記とし、動物、植物、微生物などの学名は斜体あるいは下線を引いて標記する。
11. 外国の地名、人名等は原語または英語綴りで記載し、固有名詞は最初の文字以外は小文字とする。
12. 数字はアラビア数字とし、度量衡の記号は原則として SI 単位を用いる。
例 m, mm, μm , nm, l, ml, μl , kg, g, mg, μg , ng, pg, h, min, s, ° C, rpm, Hz, Bz, %, ppm, pH, J, lx, and, dB).等
13. 略号を使用する場合は論文内に初めて使用するときに完全な語句を記載し、そのあとに略語を括弧内に記載する。なお、メートル法単位および以下の略号はその限りではない。
CD, cDNA, DNA, ELISA, Ig, IL, ip, mRNA, no., PBS, PCR, RTPCR, RNA, SPF, SD, SE, SEM.
14. 論文に記載された研究で動物実験を実施した場合は動物福祉や動物倫理に十分な配慮が取られている必要があり、以下の点について論文内に明記する。なお、原著論文は材料・方法の項目に記載する。
 - 1) それぞれの機関のガイドラインに従って実施し、機関の動物実験委員会で審査したことを示す（委員会の承認番号等）。
 - 2) 上記が難しい場合は動物福祉および倫理に十分に配慮したことを明記する。
15. 引用文献は、本文中の引用箇所の肩に引用順に文献番号を付け、本文の末尾に引用した順に並べる。

1) 雑誌の場合

著者名, (発行年), 表題, 雑誌名, 巻, 開始頁-最終頁.

例) 齋藤宗雄, 今井都奏, 橋本春夫, (2017), ビニールアイソレータの圧力変化を応用した空気漏洩の簡便な検査法の確立, 実験動物技術, 51, 41-46.

2) 単行本の場合

著者名, (発行年), 書名, 版, 開始頁-最終頁, 発行所, 発行地.

例) 笠井一弘(2007), アニマルマネジメント 動物管理・実験技術と最新ガイドライン, 第 1 版, 225-227, 株式会社アドスリー, 東京.

3) 電子資料の場合

発信機関名, ウェブページの名前, ウェブサイト名称, URL, (引用年月日 month day, year).

例) 日本学術会議. 日本学術会議, 年次報告・外部評価書,

http://www.scj.go.jp/ja/scj/nenji_hyoka/index.html (April 14, 2017).

16. 図, 表ならびに写真はそのまま製版できるようにし, 本文中にその挿入箇所を明記する。なお, 図表ならびに写真には必ず番号を記載する。表題, 説明文及び単語等は, 原則的に英語表記とする。
17. 受理され入稿の際, 写真は解像度によって印画紙に焼き付けたものの提出を求められることがある。カラー掲載は著者の実費負担とする。
18. 著者校正は原則として初校のみとし, その際新たな追加, 変更は認めない。それ以降は編集者の責任校正とする。
19. 本誌に掲載されている記事の著作権は日本実験動物技術者協会に帰属する。出版に際して実験動物 技術者協会から発行される著作権に関する承諾書(添付資料 2)に必要事項を記載し論文採択後に原稿とともに提出する。
20. 論文掲載料は論文 1 編あたり別表 4 に定めるとおりとする。
21. 別刷り料金は別表 5 に定めるとおりとする。筆頭が非会員(一般・学生)の場合は, その 1.5 倍の料金とする。必要部数は初校の際に明記する。
22. 本誌の発行は 6 月と 12 月の年 2 回とする。
23. 原稿の送付および投稿に関する照会は下記宛とする。

〒 164-0003 東京都中野区東中野 4-27-37

株式会社アドスリー内

日本実験動物技術者協会 編集部事務局 TEL (FAX) 03-3363-7223

別表4 「実験動物技術」論文投稿の条件と料金表（2021年3月20日現在）

	種別	機関誌投稿の条件	機関誌掲載料
個人会員	一般	筆頭投稿可能	10,000円
	学生	筆頭投稿可能	10,000円
非会員	一般	筆頭投稿可能（但し責任著者は個人会員に限る）	50,000円
	学生	筆頭投稿可能（但し責任著者は個人会員に限る）	15,000円

別表5 「実験動物技術」別刷作成料金表（2017年10月現在）

部数	表紙付	表紙無	部数	表紙付	表紙無
50	15,100円	3,625円	300	32,090円	19,250円
100	18,330	6,750	350	35,635	22,375
150	21,770	9,875	400	39,600	25,500
200	25,420	13,000	450	42,410	28,625
250	28,965	16,125	500	46,375	31,750

※表は筆頭が個人会員の場合の料金である。非会員（一般・学生）の場合は表の1.5倍の料金とする。